

# 健康と光線

## 今年の夏

今年の夏は、夏らしくない夏だった。例年なら、空に入道雲がもくもくと立ち、まばゆい陽光の下で真っ黒に日焼けした子供達が嬉々として水遊びをして

いる有様を、日傘をさした母親とおぼしい女性が見守っている、よく見掛ける光景を見ることも少なかった。夏にはつきものの、打ち水をしている姿を見たり、熱帯夜という言葉に聞き代わり、冷夏とか、集中豪雨とか、大地震とか、自然の猛威を実感させられた。

その影響は農作物の作柄に出始めている。野菜の価格は高騰し、米作も不作が伝えられている。植物は日照不足の影響をまともに受けるので、充分な成長を遂げられないのである。動物にはどうだろうか。動物は植物が生産する食物で生きているため、影響はあるが僅かなものと

思うかもしれない。しかし動物とて、日の差さない環境では、必ず虚弱で抵抗力が衰え、病気にかかり易いことは、これまでの多くの実験によって明らかにされている。

今年の夏は、太陽の働きが頓挫したような夏だった。ただ、太陽が地球の生態系にもたらす限りない恩恵について思い起こすには格好の夏であった。

## 太陽に自然の恩恵を感じる人は健康に恵まれる(その2)

### 色の黒いは七難隠す

サナモア光線協会 医学博士 宇都宮 光明  
サナモア中央診療所

### ただの良薬、日光浴

「ただの良薬、日光浴」は、内務省社会局保健部(現在の厚生省)が昭和初期に公募した「健康いろはかるた」の当選標語であるが、日光浴が如何にただの良薬としても、その効能を受けるには、今の世の中では努力

発行所

〒153 東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322

が要る。まず光線はハダカで浴びなければならぬが、困ったことに文明国ではハダカは行儀が悪く、不道徳とさえ考える風習があり、衣服を身につける習慣が定着している。その上、夏

に比べると紫外線の量が四分の一から五分の一になる。秋や冬の日光浴に本当の効き目がある。その話をする、「秋や冬にハダカで日光浴をしたら寒くて風邪を引きませんか」と質問を受けるが、風邪は寒いから引くのではなく抵抗力がないため引くのであって、生まれ落ちてからずっと皮膚を鍛えておけば、一年中、ハダカでいても風邪を

引かない抵抗力が養えるのである。

現に衣服を身に付ける習慣のない未開の地に行くと、全身の皮膚が大気や日光に対して鍛練されているので、われわれが年中顔や手を出してさほど苦痛を感じないように、衣服がなくても苦痛を感じない抵抗力が養われている。これらの人々に衣服を着る習慣を身に付けさせると、抵抗力が弱まり病弱になる。その一例に、アメリカインディアンの虫歯がある。自然に溶け込んで暮らしていたアメリカイン

ディアンには、虫歯になるような弱い歯を持つ者は居なかった。皆、完全な歯を備えていたことは、発掘された頭骸骨に虫歯の痕跡がないことから明らかである。それが文明に毒された近年になってから、虫歯の治療を受ける者が増え続けているのである。

### 皮膚こそ最高の衣服

人類を除けば、自ら何かで覆って光線を遮るということをする生命体はない。同様に人類もまた皮膚こそ一生を通してただ一着

しかない、最も優れた衣服と考えるべきである。

皮膚は通常の衣服と違って、外界との接断面をなすだけでなく、他に多くの機能を持つが、その主な働きを記すと、  
(1)体温を外界に対し自動的に調節する。

(2)外部の水分は体内に入れないが、内部からは汗として必要に応じて発散する。

(3)有害物質の体内への透過、病原微生物の侵入を防ぐ。

(4)様々な皮膚感覚を受け入れる。

(5)太陽光線を吸収してビタミンDを生成する。

誰でも知っていることだが、日光浴を続けて、十日、二十日と経つと、皮膚は赤色から蒼色、銅色となり、最後にチョコレート色になる。こうなった皮膚には弾力があり、滑らかな光沢を持ったピロロドのような肌ざわりになるが、これが本当の皮膚の美しさである。このようにして皮膚を鍛えておけば、全身の抵抗力を養うことが出来るのである。俗に、「色の白いは七難隠す」というが、健康面を中心に人と太陽との関係を考えるなら、「色の白いは病弱のもと」、「色の黒いは七難隠す」、のである。





宇都宮義真撮影

「実りの秋」



## 讃光譜



### 薬がなくても 病気になるらない

今、どれ程の薬があるか詳らかにには知らないが、毎日のように見聞きする新薬の数から推し量って、物凄い数になることだけは確かだ。しかし、これらの薬が全でなくなつたとしても、健康を損なつたり病気になるたりする気遣いはない。コウヤクがなくてもオデキにならないように、薬がないために起きる病気はない。それどころか、日々病院でやっていたことをわが身に当てはめて見てぞつとした。来る日も来る日も得体の知れない薬を飲まされ、流動食や栄養注射をうたれ、絶対安静で寝かされる、健康無類の人でもおかしくなるようなことが、病人には平気で行われているからである。

### 薬で病気は 治るのか？

ところで、大抵の人は薬で病気が治る、という先入観を持っているが、大抵の薬は症状には効くが病気は治さない。この思い違いを生んだのは、痛い、熱があるか、咳が出るか、何れにせよ症状がないと病気と思わない反面、病人の心理として症状がなくなれば治つたような気がするからであらう。これが対

症療法薬の隆盛を招いたのであるが、それに比例するかのようには薬害に苦しむ人も多くなつた。これでは進歩したと思われている治療も、対症療法として進歩しただけで、案外進歩していないのかも知れない。そう言えば、病人が増えた話はよく聞くが、減つた話はめつたに聞かない。

### 光線が足りない と病気になる

これに対し、光線はわれわれの健康のために必要なもので、その不足は健康を損ない病気の原因になる。

最近、予防医学や環境衛生の重要性が強く叫ばれるようになった。そのこと事態は大変に良いことであるが、その背景に薬物療法の行き詰まりがあるように思えるのである。実際、殆どの薬物療法が対症療法の域を出ていないため、難治な慢性疾患に苦しむ病人が増えている。これらの治療医学の限界に悩む患者に対して、当該疾患の予防に関する研究が進展し、予防手段が原因療法の立場から治療に応用されるようになれば、患者に福音をもたらすであらう。

光線療法は、この基本理念の上に成り立っており、予防と治療のはざまを埋める治療法の一つである。しかし、他の多くの

治療法の現状は予防とは無関係であり、根本的に発想を変えない限り、将来的にも余り期待出来ないのが実情である。

### サナモアは 健康を増す治療

世の中に善は実在するが悪は実在しない、と言う人がいる。悪

## 健康を増す治療

宇都宮 義真

は元来実在するものではなく、善の存在しない状態を悪という、と言うのだ。あたかも光と影の關係のようなもので、光は実在するため光で影を消すことは出来るが、影は光がさえぎられた状態である。実在しないため、影で光を消すことは出来ない、と言うのである。これを人の身体に当てはめて

見ると、健康は実在するが不健康は実在しないと考えればよい。健康でないのが不健康だから、健康が増進すれば、不健康はそれだけ減少する。言うまでもなく、不健康になると病気にかかるから、不健康と病気とは同じことと考えてよい。

そう考えれば、病気の治し方にも二通りの方法があるはずだ。一つは現代の医療で主として用いられている専ら病気を攻める治療方法であり、一つはサナモアが目指している健康を増して不健康を除き、病気の取り付く余地をなくす治療法である。何れが良いかは状況によって異なるが、理想的なのは後者と言わねばならない。何故なら、もし不健康な状態がそのまま続けば、その病気が良くなっても、その他の病気に取り付かれる恐れがあるからである。

サナモアは健康を増す最大の味方であり、予防と治療が合致した治療法である。万病に応用して効果があるのも、人々の健康を増し不健康を除去する上で大きな力があるからである。

「健康と光線」

昭和27年11月5日発行

「こようく欠乏症」

昭和33年3月5日

「病気と不健康」を要約した。



## 薬の起源

薬のおこりは遠く起源前に遡るが、洋の東西を問わず、主に草根木皮を応用したマテリア・メディカ(生薬)に求め得る。生薬とは、植物や動物の成分に一定の操作を加えたものをいう。即ち、植物の根、茎根、塊根、葱根、皮、木、葉、草、花、実、バルサム、油などや、動物の脂、血清、腺などを、刻んだり、粉にしたり、浸したり、煎じたりして用いた。こうして人類と薬との付き合いが始まったが、生薬には不備な点も多かった。殊に経験によって使われたため、人によって服用量がまちまちで効果も不確かであった。

## 薬の進歩が薬害を生んだ

### 製薬工業の誕生

十八世紀末から十九世紀にかけて、生薬の有効成分を純粋な形で抽出し、有機的に合成することが可能になり、生物化学の一分野として薬を対象にした薬理学が生まれた。その嚆矢となったのは、一八〇五年にセルチュルナーがアヘン(ケシの未熟果皮)から

モルヒネを単離したことである。以来、次々に生薬の有効成分が単離され、それ以前の効果が曖昧、不確かな治療法に代わって、精製薬が医薬の中心に位置するに至った。柳の木皮に含まれる天然の解熱鎮痛物質のサリチル酸にアセチル酸を結び付けたアスピリンが合成されたのは十九世紀の末である。このようにして生薬の代わりに登場した精製薬を用いれば、一定の量を投与し一定の効果を得ることが出来る。否

いじくり回していることは言うまでもない。

### 薬害事始め

医学書を紐解くと、十九世紀に薬の研究をする薬理学は画期的な進歩を遂げ、人類に測り知れない恩恵をもたらしたと記されている。しかし、薬効を重ね、副作用に対する配慮をなおざりにしたため、薬害という新たな問題の火種を作ったのもこの時代である。

## 医の原点は自然治癒力

### —ネオヒポクラティズムのすすめ—

医学博士 宇都宮 光明

射ならずと速やかに確実に薬の血中濃度や組織内濃度を高められるから一層効果がある筈だ。更に、有効成分の構造式を少し変えれば、もっと強力な効能効果のある薬を作れる、等々と考えたのである。これが大製薬工業研究所を林立させ、いわゆる新薬と称するものが次々に作られるようになった理由である。今も製薬工業界では莫大な資金を投入して、繰り返し構造式を

前述したように、現在汎用されている薬の大半は生薬から作られたが、その効能は有効成分にあると考えた。そのため薬の研究は症状に対する薬効至上主義で進められ、有効成分以外はすべて不要なものとして捨て去り、捨てた成分の中にどのような作用があるか、具体的に言えば、薬の毒性を緩和する働きがあるかどうか、顧みることはなかった。これが薬害を大きくし

性にしても毒性の低い漢方薬の方がよいという人もある。

ポクラティズムで提唱されている自然治癒力を高めることを目的にした、薬害とは無縁の治療法である。サナモアは、ヒポクラテスが医療に取り入れた日光療法の流れを汲み、太陽光に近似的な総合光線を放射する自然の理にかなった治療法として用いられるが、太陽光の有益な全波長を放射するからである。

### 自然は人類の知恵に優る

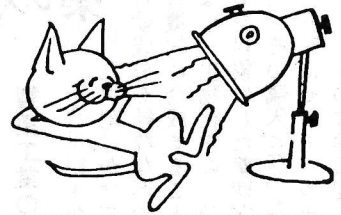
一般論で言えば、迅速で強力な対症効果がある薬ほど、強い毒性を伴い易いことを知らなければならぬ。注射は経口投与より遥かに危険だ。しかし残念ながら、薬効重視の流れは奔流となつて医学・製薬業界を支配している。それが如何に薬害につながっても、それはそれで科学的と信じられている。

### ネオヒポクラティズムの動き

ネオヒポクラティズム(新ヒポクラテス主義)とは、医学はヒポクラテスが唱えた医の原点に帰らなければならない、とする運動である。医学の祖とされるヒポクラテスは、自然治癒力(ポノス)を重視したことで知られるが、近代医学に最も欠けているのは、皮肉なことにヒポクラテスの思想だと言うのである。単純な例え話をすれば、薬に害はつきものであるが、殆ど対症療法としての効果しかない。それにも拘らず病気が治るのは自然治癒力による。その自然治癒力を医療の中心にすえたヒポクラテス思想の復興がヨーロッパを中心に叫ばれている。

この二つの事実は、自然の知恵に満ちたものを平気で捨て、自らの知恵に溺れた愚かさを示しているように思えてならない。





## — 治 験 例 報 告 —

### ☆右耳垢塞栓

(右外耳道炎)

症例 77歳 女性

(報告者自身)

症状 長年月にわたり、耳がかゆい時に耳垢(みみあか)を取ろうとすると、左は取れるが、右は石に突き当たる感じで無理に取ろうとしても取れない状態が続いていた。そこに三年半前に主人が脳梗塞で倒れ、介護に明け暮れる生活になったが、看病疲れで肩が凝り仕事がかどらないような日に、就寝すると耳鳴りがするようになった。当初は光線を15分から30分もかけると耳鳴りは治まったので、睡眠に支障はなかったが、今年の七月中頃から、耳鳴りだけでなく、耳詰まり、耳の激痛に悩まされるようになった。

(数年前、右耳の耳垢が石のように硬いため、近くの耳鼻科へ取って貰いに行った際、耳に耳垢水を注入し、数十分後に取り出そうとしたが取れず、他に異常がないのでそのままにしたことがある。)

療法経過 とにかく光線療法を一生懸命にした。なおカーボンは、その時点の症状とそれまでの経過を考慮して、適宜、BC、AB、BD、BBを組み合わせて用いた。

最初の頃は、照射しても効果がなく、むしろ悪くなったので、ひどく落ち込んだ。そんな中でも、症状が比較的和らいだ日があると、少々遠方でも、光線療法の説明や指導に出掛けたが、帰宅すると直ぐに光線療法をする、そんな日の繰り返しであった。また耳垢を取ろうと思って、これは良いという液を注入したり、脱脂綿に含ませて詰めたり、何回となく試みたが、一時気持ちが悪くても痛みが増すため、それも止めた。丁度、お盆に入ってから数日間、いたたまらない状態が続いた。睡眠がままならぬようになったので、主人の主治医が往診に見えた際に診察を依頼した。医師は光を耳に当てた途端に、「これは外耳炎だ。それにずーっと光線をかけたから、耳垢がふやけてそこまで出てる。明日に

でも耳鼻科で取って貰いなさい」と紹介状を書いてくれた。

私はほっとしたが、痛みを我慢していたので、直ぐ光線をかけ始めた。三、四十分した頃、耳が痛がゆいので、耳痛が激しくなってきた。始めて耳かきを消毒して耳に入れた。大豆の二分の一から三分の一位の大きさの引き肉のようなものが四、五個出て、耳鳴りや痛みが少し和らぎ、幾分すーっとしたこともあった。

て、耳鼻科受診は中止して様子を見ることにした。翌日も痛みが目覚め、一時間余り照射したが、また痛がゆくて居たたまらなくなってきたので、耳かきを手ごたえのあるところまで入れ、動かしながらかき出した。何と大豆大の耳垢が出た。その途端

### ☆胃ポリープ

症例 63歳 男性

症状 胃がもたれ気味で、時々ちくちく刺すような腹痛があり、腹部に違和感を感じるため、病院で検診を受けたところ、胃に四ヶ所ポリープがあると診断され、経過によっては手術をしなければならぬ、と言われた。しかし、当人は手術が嫌で、切らずに治したいので光線療法を試みた。いと、平成四年六月に来所された。

療法経過 カーボンは、BDあるいはABを組み合わせて使用し、同時に二台の治療器を用いた。まず側臥位で、胃部(上腹部)60分(二号集光器)、足裏15分、胃部後方から10分、膝10分、次に仰臥位で、腹部に左右から10分、膝に左右から10分照射した。治療を始めて十日目頃から、自覚的に効果が表れ、食欲が増し、腹部の違和感が薄れたと言ったので、治療を始めて二ヶ月目

### サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」をもとに愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、サナモアA、B、C、Dと効果が同じという根拠も無いような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、御注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

すーっとなった。それから小さな耳垢が二、三個出た。痛みが消え去り、耳鳴りもかすかになり、テレビの音のはっきり聞こえるようになった。

しかし今も、まだまだ油断大敵と思って毎日照射しているが、分泌物が少しづつ出る。今回は

光線が耳垢(異物)の排除を促す私自身の体験を報告したが、私が悩まされた数十日間、家中が暗かったのが明るくなり、皆で喜んでくれたのが何より嬉しかった。

春日市 育美健康光線療研

前田 ミサ氏報告

TEL09二一五八一二〇三九

から、胃部の照射時間を30分にして治療を続行した。

治療開始三ヶ月後に病院で胃の再検査を受けるように指示したが、四ヶ所あったポリープは三ヶ所でなくなっており、更に治療を続けたところ、四ヶ月目にすべて消失した。なお本年八月の検査で異常なく、切らずに治ったと大変に喜んでいいる。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL0四四一七二二一五〇六七



## 難病に対する光線療法

### はじめに

クローン病は炎症性腸疾患に分類されるが、原因不明で、主に若年層の成人を侵す病気である。本症は消化管に炎症性病変が多発するが、病巣は口腔から肛門までの部位にでも起こり、再発を繰り返す。

### 症例

患者 男性 35歳  
会社員

起始経過 本年の二月中旬、風邪気味のところ、身体中のおちこちの関節が痛くなり、下痢、腹痛が止まらないので、近くの医院で診察を受けた。そこで下痢止

めと鎮痛剤を投与されたが、日に十回以上の下痢は止まる気配すら見せず、三月の中頃には激しい腹痛、下痢に苦しむだけでなく、肩や腰の痛みが益々ひどくなり、鼻から血液が混入した粘液状のものが流出し、歯茎が腫れ、開口に伴う顎関節の痛み

返しつつ慢性に進行するのが特徴である。また栄養障害、発熱、貧血、関節炎、虹彩炎、肝障害などの全身性合併症を併発することがあり、症状は病変の部位や範囲によって異なる。なお特異的に奏功する薬剤はなく、手術的に病巣部を切除しても消化管の残存部に高率に再

発するため、手術は出来るだけ行わないのが原則とされている。そのため厚生省特定疾患、いわゆる難病に指定されている。筆者は今回、クローン病の一例に光線療法を行う機会があり、臨床的に顕著な効果を認めたのでその概要を報告する。

## クローン病の一治験例

神戸市

ウエノ光線療研

上野

健太郎

で口を十分に開けられなくなり、そのために食事の量も減った。それやこれやで健康時58kgあった体重は一ヶ月で10kgやせて48kgまで減り(身長166cm)、足は竹のように細くなり、顎の痛みで顔面の相が変わるほどであった。なお血液検査で、白血球が多く、コレステロールの値が低いと言われた。この段階で、開業医から市立中央病院を紹介され転医した。そこで血液検査の後、下痢止めとステロイド(副腎皮質ステロイドホルモン)が投与されたが、

ステロイドの副作用で目から顔全体が腫れ上がってきたため(満月様顔貌・ムーンフェイス)、直ちにステロイドは中止となり、代わりの薬が投与された。この間、血液検査、レントゲン検査、内視鏡検査が行われ、最終的にクローン病と診断され入院の予約をした。

入院はベット待ちのため六月二日に延びたが、家人の勧めで光線療法をする気になり、入院するまで三週間治療した。

療法経過 治療はBDカーボンで、腹30分、腰20分、集光器を使って胃10分、肛門30分、ABカーボンで、足裏20分、膝10分、背10分、朝晩二回照射するように指示した。患者は入院する前に診察を受けたが、その時に担当医から、「初診の時と比べると、大分肥ったね。二回目の検査の結果が出たが、一回目に比べて、かなり良くなっている。白血球も一万三千以上あったのが正常値に近い位まで下がっているし、中性脂肪も増えてきている。薬をきちんと飲んでんだね。えっ、薬は飲んでいない。うーん、薬を飲まないで良くなっているのか。しかし君、薬はきちんと飲まないといかん。後で悪くなる」と声を強めて叱られた。

入院後は、成分栄養剤(エレンタール)の経管注入と薬物治療(サラゾピリン)を受け、六月二十八日に退院したが、その間にもしばしば外出や外泊許可をとって帰宅し、時間の許す限り光線療法を行った。その結果、最悪の時には日に十回以上あった下痢が二、三回になった。退院の十日後に会社仕事に戻った。病院で指示された鼻から管を通した成分栄養剤の注入は、自分で就寝中に行っていたが、最近はずっと注入をなまけて、禁止されている米飯等の普通食を摂ったり、ビールを適当に飲んだりしている。また患者の言によれば、投与された薬は、医師には内緒にしているが、全く服用していない、とのことである。それにも拘らず、現在、体重は58kgに戻っており、八月末に行った血液検査の結果は良好で、担当医から「何も言うことはない」と言われている。

なお患者の現況報告によると、七月下旬頃から月に二、三回はゴルフコースに行つてプレーを楽しむ、週に一回は屋外プールで千メートル泳いでいるので、全身すっかり日焼けし、肉も付き、外見は見違えるほど逞しくなった。会社の同僚や周囲の人からは、「病人には見えない」、「難病指定のクローン病って、どんな病気なんや」と驚かれ

八六ページへつづく



# △五ページからつづく▽

たり、冗談を言われたりして  
いる。そんなこともあって病気に  
対する緊張感が緩んだのか、最  
近は光線療法も一時の半分もし  
ていないようだが、体調は日に  
二回の下痢を除けば、極めて良  
い。来年の夏はハワイでゴルフ  
が出来るように、これから再び光線  
療法に精を出すと言っている。

## 考案

過日、ある医学雑誌に掲載さ  
れた消化器系疾患の専門医によ  
るクローン病についての座談会  
の記事を読んだが、治療の現状は、  
原因不明のために根本療法はな  
く対症療法の域に留まっており、  
その主体は消化管の炎症を抑え  
栄養状態を改善する内科的治療  
で、栄養療法と薬物療法に大別  
されるが、それぞれ難しい問題  
が山積しているようである。

栄養療法は、成分栄養剤(E  
Dともいう)をチューブで注入  
する経管栄養療法である。成分  
栄養剤とは、脂肪の外は完全に  
消化した形、即ち糖質はブドウ  
糖、蛋白質はアミノ酸から成る  
もので、消化態栄養剤ともいう。  
この栄養療法は、食事の摂取  
量の不足を補い、低栄養状態

を改善するだけでなく、消化管

の負担を軽減して、腹痛や下痢  
などクローン病に基づく諸症状  
を改善する効果のあることから  
本邦では第一選択の治療法とし  
て広く用いられている。しかし、  
この治療にも対症療法としての  
限界がある。実際に成分栄養剤  
から半消化態栄養剤、普通食へ  
と移行させる過程で、病状の再  
燃、増悪を認めることが多く、  
殊にこの治療を年単位で続ける  
ことを考えると、患者は勿論、  
治療を指示する立場の医師とし  
ても全く悲観的にならざるを得  
ない、と胸中を吐露している。

薬物療法に関しては、炎症抑  
制効果を持つステロイドを始め  
とする薬剤や、近年、本症の成  
因として注目されている免疫応  
答の異常に対し免疫抑制剤が使  
われているが、何れも根治させ  
るには程遠いために長期投与に  
ならざるを得ない例が多く、そ  
れぞれに相当の副作用があるた  
めボロボロになっている人も見  
られると述べているが、これが  
現場の医師の率直な本音なので  
あろう。

ところで、今日の医学でも、  
病気の成因については分からな  
いことだらけである。クローン

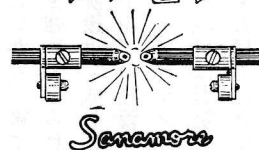
病についても、遺伝的素因、細菌

やウイルスなどの感染症、食事  
因子、免疫異常、血流障害などが  
想定され検索されたが、決定的  
なものとは得られていない。しか  
し病気は何らかの生理的な機能  
の異常が持続し、それが積み重な  
って起きるのである。これに対し、  
光線療法は生理機能を正しく賦  
活し、健康面に必須の有用な作  
用で対抗する。これが幅広い適  
応性を持つ由縁であり、これま  
での経験でも、適切な薬がなく  
手術の適応にならない難治とさ  
れる疾患で、しばしば予測を上  
回る効果を認める理由であらう。

今回の報告例を見ても、成分  
栄養剤の経管投与前に明らかに  
改善の兆候を示し、投与された  
薬も内緒で服用していないにも  
拘らず、良好な状態を保持して  
いる。このように光線療法が奏  
功した機序は、推論の域を出な  
いが、光線療法の消炎鎮痛効果  
や免疫応答の調節作用に加えて、  
宿主(患者)の自然治癒力を高  
めたことが、病状の改善につな  
がったものと思われる。

なお今後も経過観察を続け、  
光線療法が本症に及ぼす影響に  
ついて改めて報告する所存である。  
(TEL〇七八三三二一三三八)

サナモア



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線  
は、私たちに限らない恩恵を与えています。  
サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増  
進、疾病予防および治療効果を利用した治療  
法です。従って、目に見える可視光線だけで  
なく、目には見えないがなくてはならない紫  
外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しな  
ければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研  
究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うため  
サナモア光線協会を設立しました。  
サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同載  
いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を  
発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。  
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一  
三七一—五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)